

2020年度前期オンライン授業に関するアンケート（ライフデザイン学部）【自由記述（講義系）抜粋】
オンライン授業を実施してよかった点（講義系：ライフデザイン）
（利便性・反復受講）

1	一人一人が深く思考するようになったこと、学生がリラックスして負担感がない環境で受講できたこと。
2	学生が自分のペースで動画を視聴できるため納得できるまで講義を聴講でき、結果的に脱落する学生が少なかった。
3	レポートに時間をかけているため、内容は充実している学生が多かった。
4	対面授業よりも課題を多めに出すことができた。自学自習をさせることができたのではないかと思う。また、グループディスカッションなどは厳しいかとも考えたが、Teamsをうまく使うことで授業でグループディスカッションを行うような形でやることができた。

（授業の質向上）

1	講義内容、用語等について、これまでに増して、事前に検討や準備を重ねたこと
2	全学生に共通して授業内容を解説できたこと。
3	1回の授業を全13回分20分程度の動画3本で構成した。授業内容（流れ）の見直しと、紹介事例などを充実を図り、結果として首尾一貫した授業スタイルを維持することができた。
4	毎回授業アンケートの項目を使ったが、この中で質問をする学生が意外に多かった。
5	Teamsのチャットなどで簡単に会話できるので、生徒一人ひとりとのコミュニケーションは、むしろ取りやすかった。
6	ゲストスピーカー5名（デザイン実務者）によるオムニバスの講義でしたが、それぞれの講師が創意工夫して授業を構成し、対面のときとそれほど変わらない（あるいは補える）授業になったと考えます。

（教員にとって）

1	ある程度フレキシブルに時間が使える。
2	"指導者のITスキルがアップしたこと、学生の多くは集中して受講できたこと。

オンライン授業を実施しての問題点や課題（講義系：ライフデザイン）

（視聴実態の把握・出席管理）

1	授業動画をきちんと視聴しない、解説動画も視聴せず、とりあえず、課題だけを提出している学生が一定数いること。こうした学生への対策をどうすればよいか。
2	学生の中には教材動画をよく見ずにレポート課題をやったり、小テストを受験したりしているものがいた。
3	学生のなかには、ビデオ視聴を早回しで見たり、最初の数秒アクセスして終わりという学生がみられた。
4	出席確認ボタンだけをクリックし、実際のビデオ視聴は違う時間帯に行っている学生などが

（受講・通信環境）

1	スマホだけで対応する学生が散見された。学生側のネット・パソコン環境が障害となることが多く、大学が実施したノートパソコン等の貸し出しはとてもよいと思ったが、一部受講生のパソコンスキルレベルの低さは共通して大きな障害のひとつであった。
2	やはり十分な通信環境、又は負荷の小さい配信方法を取ることが大前提の仕組みと思われる。
3	学生間で受講環境が異なっていたこと、受講に苦労した学生たちも複数いたこと。
4	学生側はリアルタイムでの受講は難しい。

（教材作成の技術的問題・教員負担の増大）

1	準備、実施、評価を合わせた全体としては作業負担は増えている。
2	マイクで音声をうまく拾えていない部分がある授業回があり、しかも授業録画を全て再生しないとわからないような部分だったので、こちらとしては気づかずにそのままアップロードしてしまった。
3	授業時間を超過してしまった回が何回もあり、録画をするにあたって残り時間を正確に測る必要性を感じた。
4	オンラインツールに対する知識が乏しく、難易度の低い方法をマニュアル通りに行うことしかできず、常にトラブルが生じたらどうするかという不安があった。対面授業と比較して、授業の準備、課題の確認・採点、試験の準備・採点、受講率の悪い学生のフォローなどにかかる時間が長くなり、睡眠時間の減少や、長時間のPCを用いたデスクワークに伴う目や足腰への影響があった。
5	授業の準備や課題作成、提出された課題の管理などで、昨年より3倍程度の時間が取られた。
6	オムニバスでそれぞれの工夫が凝らされた授業だったが、使用アプリ（Zoom / Teams / その他）や授業の流れなどの統一がなく、学生に一部混乱があった（対面では問題にならなかった点。オンラインの場合はわかりやすい手続きが必要かもしれません）

（学生の反応・理解度の把握）

1	コミュニケーションがとりにくい
2	講義のように学生の反応を見ながら適宜説明を加えたり話題を転換することができない点。
3	学生のモチベーション維持が最大の課題。リアルタイムなら改善できそうにも思うが、教員側の負担も懸念される。
4	オンデマンド講義の場合、ライブ感…みたいなのが足りなくなると感じた。
5	一方的な講義になりがちだったので、学生によってはやる気をなくしたこと。

(成績評価・試験)

1	厳密な意味での出席状況の確認が出来ないこと。試験も対面で出来ないこと。
2	テキストの内容に拘束されて、スライドを作成したため、一部の学生からはテキストの朗読であるとの指摘を受けた。

オンラインでの期末試験実施の問題点（講義系：ライフデザイン）

(不正防止のための工夫や作題上の問題点)

1	答案を見る限り、不正行為は防止できていたように思われるが、通常の試験より、設定等の準備への負担は重い。
2	問題が画一的になりがちなこと

(通信環境の問題)

1	通信環境の不具合が出るかのせいがあるので、そこをどう対処できるかだと思う。今回は、事前に、タイムラインに教員の研究室の電話番号を教えて途中で Web が固まってしまった場合等には直接連絡してもらい、すばやく対処できたので、特に大きな問題点はなかった。
2	学生の受講環境により追試を複数回実施しなけりならなかったこと。
3	ネットワークや機材に関する環境要因のため、学生がストレスを感じてしまうこと。

(その他)

1	追試験の日程や再試験の日程はある程度は決めておいて頂いた方がよかったと思います。日程がうまく伝達できていなかったなどの問題がありました。
2	レポート課題だったため、例年と変化なし

オンライン授業の教育効果についての意見（講義系：ライフデザイン）
（評価できる点）

1	学生の理解度は対面と変わっていないように見受けられる
2	知識伝達型の講義では、対面より優位な点もあると考える。
3	どちらかと言うと、講義系の授業には向いていると思います。
4	単位取得率から見て通常授業との差は殆どなかった。
5	何にでもそうだがメリットデメリット両方がある。ただし、オンラインの場合は、教員が手を抜くと粗悪なものになるし、手をかけるといいものになるのではないかと思う。
6	何を学ぶのか、学ぶ内容の違いによって、オンラインで効果がある場合と対面の方が効果がある場合があるのでできれば両方を授業の中で用いることができるのがいいような気がする
7	繰り返し学習ができて効果的である。場合によっては、前期のビデオを後期に視聴して学習したものに単位認定が可能ではないかと考える。
8	繰り返して学習できること（復習に効果的である）。
9	学生によっては自分のペースで学習を進められることは良いことだと思います。後は、どのように学習意欲を高めてあげられるかが教員のスキルかと思います。（とても悩ましいです
10	教材を工夫し、学生に講義視聴、課題による復習と、繰り返し学習を習慣化するように促すことで学習効果は得られるのではないか。
11	学生が自律的に学習するようになることでしょうか。また、ITスキルを使用するので、将来の仕事でもデジタルスキルの重要性を意識できたことも効果の一つかもしれません。

（二極化の顕在化）

1	自学自習をさせたいような内容の場合、オンライン授業は非常に良いと思うが、学習意欲が低い学生などには、もっと工夫しないといけない気がする。
2	学生の能力の差がより拡大しやすい。
3	教育効果は授業内容+学生の積極性によると思います。一概によいとも悪いとも言えないし、良いとも言えないと感じています。

（対面授業の重要性）

1	1年次のホームルーム的性格をもつこの科目において、全てをオンラインとしたことは、やや無理があったという感覚を持っている。何とかして1～2回は対面授業を実現させながら、その予習の意味をもたせた各担当回の講義を効率よくオンライン視聴する、という併用
2	まだ、判断できません。

オンライン授業をどのように活用しますか（講義系：ライフデザイン）

（積極的利用）

1	基本的な座学の授業内容はオンラインのオンデマンド形式で問題なく感じているため、反転授業の実施が可能かと考えている。
2	一度の授業では理解できないような場合、アクティブラーニング的に自分でまず調べて、その後解説をいれるような場合などはオンライン授業が適している気がする。
3	オムニバス回の個人講話はオンライン、複数担当による討論講義は対面としたい。
4	継続していきたいと思います。

（アーカイブ化・補完的利用）

1	補習、繰り返し学習のための教材をデータベース化する。
2	アーカイブ化による授業内容の改善に活用したい。
3	一般講義の補足情報として、視聴ビデオを学習の復習として活用できそうである。
4	対面型授業を実施した際、欠席者の学習教材として活用が考えられる。
5	対面や移動がむずかしい場合に有効だと思いました。また、Teams でミーティングをすることも必要に応じて

（負担軽減その他）

1	移動の負担がないのはありがたい。また、今年度作成したコンテンツの有効利用が可能となる。学生の能力も明確に測りやすい。
2	オンデマンドにより本来の授業時間に違うことに対応することが可能になった。
3	学生の有無にかかわらず講義を行い、それを録画して配信する方式であれば我々の負担も少なく、学生にとってのメリットも大きいと思う。

今後の授業に向けての要望や意見（講義系：ライフデザイン）
（オンラインの積極利用・制度化）

1	今回作成したビデオ教材を次年度においても何らかの方法で活かせるようにしてもらいたい。たとえば、学科横断での履修などに活用できないだろうか考える。
2	全部は無理でも一部科目をビデオ講義で代替できる制度を設けるべき。せっかく作ったコンテンツや、授業時間を別の仕事に割り当てることもできるため。
3	教員にとっても、学生にとっても、できるだけシンプルでわかりやすい形で実施できたらと思います。

（対面授業・対面試験の拡大）

1	個人的には、教員の熱量が伝わり、手ごとの息遣い交換をしながら実施できる従来の対面授業を望みます。ただし複数教員によるオムニバス授業なので、ほかの教員の意見も聞く必要あり
---	--

（教員負担の軽減）

1	現在は動画の作成や公開に関わる諸々の作業、クレーム対応等をすべて教員が行っているが、他大学のように専門の部署が対応する形にしてもらえるともう少し講義内容の充実のために時間を割けると思う。
---	---

（情報共有・サポート体制）

1	今回初めての取り組みであったことから、受講した学生の立場から、オンデマンド型授業の意見や要望を集めて情報開示してもらえると、参考になる。
2	情報機器の多様な活用方法などの事例を提示してもらいたい。

（施設設備の充実・LMSの改善）

1	出席管理機能が用意に利用できることを要望したい。
2	実技実習などでの、映像を録画したり、する道具の充実をお願いしたい。スイッチャーな
3	オンラインの場合、Teams でも問題はないのですが、ZOOMの方が機能面でアドバンテージがあるように感じる。

（著作権問題その他）

1	次年度の著作権処理について、どうなるのかが非常に気になります。（今年度は特別に免除だと思いますが）
2	今年度の授業録画を、そのまま次年度にも再利用してもかまわないのかが気になります。

前期授業全体を終えての感想（講義系：ライフデザイン）

1	特に大きな問題は感じなかった。システム等に関する教務課等からの適切な情報提供がありがたかった。
2	全 39 本の動画作成、エンコード、アップロードなど 通常の 3～4 倍の準備時間を必要としたが 講義としては従来授業よりも充実できたと思う。
3	1 年生の最初の科目なので、ビデオ教材なども使って興味を引く授業にしたいと考えていたが、オンラインの場合は著作権の問題等があり、それができなかったのが残念。しかし、今回後半になればなるほど慣れてきて工夫できるようになってきたので、このノウハウを活かして今後はもっとよいものを作れるのではないかと思う。
4	準備は大変だったが、それなりにうまくやれたような気がする。
5	概ね問題なく授業の進行ができた。レポートの出し方には今後さらなる工夫が必要である
6	最初は授業動画の作成に苦労したが、なんとかやり終えた、という感想です。最低限のやり方がマスターできたのはよかった。今後はさらにブラッシュアップできそう。
7	Web-class と teams と stream の併用、視聴環境の把握など、多くの困難を乗り越えて実施完了したことは、学科全体の協力状況からいっても一定の成果といえるが、元来分野横断的な内容であるため、分野間の理解は例年より低調となった感がある。
8	オンデマンド型授業では学生のその時々理解度がわからない。ビデオ視聴の時間枠と、予定するテキスト進行計画との兼ね合いから、テキストの内容を外れる話題などの提示ができなかった（反省点）。
9	学生のリアクションは例年よりもよいと感じた。
10	授業の内容から、オンラインでの実施でもそれほど問題はなかった。授業準備の時間は多くかかるが、2 年目以降の準備時間は減る傾向があるため、オンラインでの実施もあり得ると感じた。著作物を多く扱う授業のため、オンラインの場合、取り扱いが心配ではある。
11	例年に比べ、期末試験の平均点が高い結果となった点は良かった。講義資料を通常の 2 倍のページ数で作成したことで、学生が復習や試験対策に取り組みやすかったのではないかと考えている。